

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : JAIわて花巻認知症対応型共同生活介護 グループホーム とどろき

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500296		
法人名	花巻農業協同組合		
事業所名	JAIわて花巻認知症対応型共同生活介護 グループホーム とどろき		
所在地	〒025-0132 岩手県花巻市北笹間13-71		
自己評価作成日	令和3年12月8日	評価結果市町村受理日	令和4年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした共用ホールと居室空間で、各利用者様が好きな場所で過ごされています。廊下には転倒しても重傷とならないような柔軟性の高い床材を使用し、浴室には一般浴の他にリフト付き浴槽も完備しています。開所5年目に入り入居者様の高齢化やADL低下に伴って、個々または全員を対象とした軽体操やリハビリを兼ねたレクリエーションにも積極的に取り組み始めたところです。医療面では訪問看護ステーションと医療連携の契約を交わしており、看護師による定期的な訪問と24時間の連絡体制が取れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、花巻市西部の田園地帯にあり、利用者は広く明るい共用ホールを中心にゆったりと過ごされています。事業所では、利用者が転倒しても大きなけがに繋がらないように、柔軟性に富んだ床材を使用したり、筋力低下に伴う転倒を防止しようと、毎日ラジオ体操や軽い筋力トレーニングも行っている。医療面においては、多くの利用者が地元のクリニックを利用し、週1回、24時間対応の訪問看護の環境も整っており、医療連携体制が良好となっている。また、コロナ禍にあっても、感染防止対策のうえで運営推進会議を委員が参集して継続開催していることも評価できる。今年度からは、組織的な業務改善に全職員が参加して取組み、具体的な成果もみられており、積極的な施設運営に注力している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示して朝礼時に唱和を行っており、理念を共有して、それに基づいたケアを実践、または心掛けています。	開設時に職員間で話し合って作成した理念である「目配り～変化に気づく、気配り～思いやりを感じとる、思いやり～いたわりの心」をホールに掲示し、毎朝の朝礼では職員が唱和し共有している。常に見守りを心掛けるなど、理念を日々のケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、なかなか地域との繋がりを持つのが難しく、日常的な交流は出来ていませんが、出来る範囲で地域の学童クラブ等とは交流しています。	コロナ禍のため地域との交流活動が思うように行えない中、地元の学童クラブとの交流は継続しており、クラブからは子ども達の文章入りのポスターが届けられ、事業所からは広報誌を送っている。また、秋祭りの際には子ども神輿が近くで披露され、利用者が楽しく見学している。	地域とのお付き合いは、災害時などでの協力関係の確保のためにも大切な事柄であり、地元の自治会への加入を検討し、繋がりを深めるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の影響もあり、活かせていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期開催し、運営推進委員から情報提供・指導を得て活かしています。	コロナ禍にあっても、開催場所として事業所外の会場を確保し、参集しての会議を継続している。同会議は身体拘束廃止委員会も兼ねて開催されている。委員には民生委員や行政の地域センター長、住民代表等が参加しており、ヒヤリハット事例や感染予防対策など、活発な話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターや市の長寿福祉課に相談したり情報交換を行っています。	地域包括支援センターの担当者とは空室状況などで、市役所長寿福祉課の担当者とは実地指導や事故報告などで頻繁に情報交換や相談を行っている。その他にも市が運営しているケア倶楽部を通じて、介護関係の様々な情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設けて、定期的に報告等を行っています。また、事業所等の研修を受け、センサーマット使用時には利用者・家族様の了解の下で実施。状況によって玄関の施錠をしています。	運営推進会議に併せて身体拘束適正化委員会を開催しており、ヒヤリハット事例の報告や意見交換を行っている。JAIいわて花巻健康福祉部全体での研修や、事業所独自の研修も実施し理解の促進を図っている。家族の了承を得て、2名の利用者がベッドセンサーを使用している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : JAIいわて花巻認知症対応型共同生活介護 グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学び、ケアの内容は個別記録や申し送り時に共有し、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用出来ておらず今後の課題ですが、1月に社協主催の講演会に参加する予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては説明の途中途中で質問等を伺いながら理解・納得を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等は日常生活に取り入れ、運営に反映されています。ご家族とは面会時や電話等で伺い、対応しています。	利用者の意見等は日々の会話の中で伺っており、「買物に行きたい」という希望が多いものの、コロナ禍で出かけることが難しく対応には苦勞している。家族には毎月のお便りや3ヵ月毎の広報で様子を知らせており、来所時には利用者とは面会してお話している。また、JAの健康福祉部でも年1回は家族アンケートを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートや毎日の申し送り、月1回の定例会、面談で意見・提案を聞く機会を持ち反映している。	毎月の職員会議や毎朝の申し送り時に、職員から意見が出されるほか、管理者や部長との個人面談の際にも提案等がなされている。また、今年度は職員アンケートの結果を受けて、全職員が参加して5部門での業務改善に取り組んでおり、タブレット活用等の成果を挙げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートや面談にて現状を把握し、職員と共に整備途中です。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : JAIいわて花巻認知症対応型共同生活介護 グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で職員間で教え合う環境を整え、外部研修に参加した場合は報告する機会を設けています。リモート研修や集合型研修に積極的に参加し、業務に取り入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でもあり、同業者と交流する機会を作れませんでした。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔、声かけでコミュニケーションを取り、信頼を深めている。情報収集や情報の共有に努めて穏かに過ごせるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前のアセスメントを丁寧に聴き取り、ご家族の方と密に連絡を取りながら概ね努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に生活環境等の情報収集に努め、カンファレンス等で職員間が適切なサービスを提供するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全体的にADL低下傾向のため介助する事が増えていますが、利用者さんから「ありがとう」と言葉があった時は「お互い様」と言葉を交わすなど支え合う関係を意識して、洗濯たたみや食器拭き等を一人ひとりが可能な範囲で役割を担って頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中で、居室担当やケアマネが出来る範囲でご家族の意見・要望も取り入れたケアを行っています。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : JAIわて花巻認知症対応型共同生活介護 グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中で、出来ていないです。今の場所が自分のいる場所であるよう支援に努めています。	コロナ禍のため馴染みの人との面会や馴染みの場所への外出等は殆どできなくなっているが、面会については昨年10月から一定の条件の下で、家族とは談話室で再開している。地元の理美容師が定期的に来所してくれており、新たな馴染みとなっている。	コロナ禍による面会制限がさらに続いていく可能性もあることから、リモート面会等の方法による面会機会の提供についても検討されることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事を通じて席の配置を変えることで、他入居者同士との関わりを図ったり、利用者同士の関係を把握し、トラブルにならないようその都度声がけをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方に関しては、ケアマネがご家族や病院との連絡を取り、退院後のフォローをしています。退去後の相談はありませんが、あれば対応させていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の過ごし方、会話を元に情報を共有し、希望や意向の把握に努め、ご本人の思いを汲む努力はしています。	利用者との関わりの中で思いや意向の把握に努めており、言葉以外でも、たとえば財布を持つてくる場合には、買い物に行くことを希望していると判断している。希望については、買い物に行きたい、自宅に帰りたい、兄弟に会いたい等が多く、申し送りノートにも記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・アセスメントシート等で共有された情報を元に経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、個別記録に残しており、申し送り等で情報を共有することで現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が作成したアセスメントシートを基にケアプランを作成して、必要に応じてカンファレンスを開いてケアプランを見直しています。	居室担当の職員がアセスメントシートを作成し、これをもとにケアマネが介護計画案を作成し、職員カンファレンスにおいて検討のうえで決定している。計画の見直しは、主治医の助言や家族の要望等も考慮しながらモニタリングし、3ヵ月毎を基本として行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : JAIわて花巻認知症対応型共同生活介護 グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、職員間で情報共有するように努めています。他の職員のケアの工夫も共有し、活かしている部分もあります。もっと利用者との関わりを大事にする記録を増やしていきたいです。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人員不足等で難しい面もありますが、その場の状況により取り組むよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、地域の美容院の利用は継続しています。また、地域の幼稚園の神輿巡行では久しぶりに子供たちの元気な姿・声を目の前にして楽しませていました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的受診による健康管理は保たれています。	地元の協力医をかかりつけ医としている利用者が6人で、職員が受診に同行している。他の3人は家族が付き添って市内の診療所に通っている。協力医はコロナワクチンの接種も来所にて対応してくれた。また、24時間対応可能な訪問看護サービスを利用し、週1回の来訪がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携で看護師に入居者の状態を伝え、アドバイスをいただいています。またその内容を職員間で共有されて、状態変化時に相談できるような関係作りに努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供や入院中の相談等に応じています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化対応指針の説明・同意を得ており、訪問看護と医療連携も契約しています。事業所としては人員体制等で現段階での看取りは困難ですが、今後の社会情勢を踏まえ、研修を受けています。	重度化した場合の対応については、入居時に家族や本人に説明し了解を得ており、現状では入院や特養への施設変更となるケースが多い。看取りについて、職員の研修は行っているが、職員対応の面でまだハードルが高いと感じており取り組み例はない。それでも、終末期までの入居を希望する方もいることから、中期的な課題として取り組みを進めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応方法を研修等で確認し、行えるように努めています。訪問看護との連絡を密にし、協力体制が取れるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害を想定した訓練をしています。(ハザードマップでは水害の範囲入っていないため未実施)JA職員の協力を得る事にはしているが、その他地域との協力体制は薄いです。	ハザードマップで浸水や土砂崩れ等の地域とはなっていないことから、主に火災を想定した避難訓練を実施している。夜間想定は、昨年の場合、7月の夕刻に行っている。地域の協力体制としては、近隣に居住するJA職員を頼りとしている。	夜間想定は、7月に行っていますが、できれば実際に日暮れて暗くなる晩秋の夕刻時に実施して、暗い中での対応訓練や課題の発見に繋げるよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、性格、認知症状の違いを理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心がけています。	人格の尊重とプライバシーに配慮して、例えば失禁時の対応では、周りから見えないよう「大丈夫ですよ」と優しく声をかけてケアしている。経歴等にも配慮して、教師だった利用者には、職員が生徒のように話しかけるなど、一人一人の人格や誇りを尊重した言葉遣いにも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行う前に、ご本人に確認する等自己決定出来るように働きかけている。意思表示が難しい方は、表情等から推測して支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が少ないため利用者一人ひとりのペースを主とするケアが出来ない事もありますが、出来るだけ一人ひとりがどのように過ごしたいのかを体調等確認して、希望に沿えるよう支援しています。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : JAIいわて花巻認知症対応型共同生活介護 グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に関しては、状況に応じた身だしなみが出て来るように支援しています。着るものを一緒に選んだり、行事に有った物を着ていただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事に合わせた献立を提供し、食事を楽しむ工夫をしています。各利用者の体調に応じて食器拭き等の跡片付けの役割を決めて支援したり、畑の野菜と一緒に収穫して、料理に活用し喜ばれています。	献立作成と調理は職員が行っているの、なるべく利用者の希望を取り入れて提供するようにしている。特に誕生日には、その利用者の希望メニューとし、皆でお祝いしている。利用者は食器やお盆拭きなどを手伝っている。月1回はおやつ作りで、ケーキやパフェ等を職員と共に作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をこまめにチェック、観察して情報を共有しています。一人ひとりに合わせたトロミや形状を提供。必要に応じて代価食品による栄養補給もしていますが、更に栄養バランスについて検討していきたいです。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ひとり口腔ケアを行ない、ご本人の能力に応じた口腔ケアに努めています。また口腔内の状態変化を記録に残すようにしていますが、観察が難しい場合もあります。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、一人ひとりのパターンを見て出来るだけトイレでの排泄を支援しています。	排泄チェック表を活用して、継続してトイレでの排泄ができるよう適時にトイレ誘導している。布パンツ使用で自立の方が3人で、その他はリハビリパンツの使用となっている。排泄状況が悪化しないよう、丁寧な介助支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や一人ひとりに合わせた薬による排便コントロールや腹部マッサージを行うなど排便に繋がるよう支援をしています。最終的には薬の使用が必要か、職員間で判断するように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	個々の希望に沿った対応は難しいですが、状況に応じて午前・午後週2回の入浴が実施出来るよう努めています。	週2回の入浴を基本としており、職員と1対1になり、リラックスしてゆっくりと会話ができる時間となっている。入浴を嫌がる場合には、別の日に変えたりして対応している。また、希望により就寝前の足浴も行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : JAIわて花巻認知症対応型共同生活介護 グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室に加湿器を設置するなど居室内の環境整備をし、安心して休めるように工夫しています。また夜間に起きた時に飲めるよう個人毎にお茶を準備しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が薬情報を確認しており、薬変更時は特に様子観察を徹底して状態に応じて副作用等を見直しています。また一人ひとりに服薬介助をし、飲み込むまで確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員不足等で出来ていない事が多いですが、興味に合わせてテレビを観る時間や歌を歌う時間等を設けたり、個々の能力に応じて生活上の役割を持っていただくよう努力しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍もあり、希望は傾聴しますが実現に至っていないです。(コロナ・人員不足) その日の天候により施設周辺の散歩は適宜行っています。	コロナ禍のために、皆での外出機会は中止状態となっている。この中でも、事業所周辺を回る散歩を楽しんだり、近隣を巡るミニドライブを行っており、春には桜、秋には紅葉を楽しんでいる。家族が通院介助の際に、利用者の希望する場所に連れ出すこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物支援は出来ていません。ただ1名お金を所持する事で安心につながっている方がいらっしゃいますので、そのまま所持頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	取次や希望があれば行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度・温度の管理・光量の配慮を行っています。特に冬は加湿器で調整。共用ホールでは季節感を取り入れた壁面装飾を利用者様にも出来る部分は一緒に作成しています。	共用ホールは太い木柱と梁が目に入る。天井は高く、広くて明るい空間となっており、広めの畳の小上りも備えている。空調はエアコンと床暖房、加湿器で快適に保たれている。利用者はホール内の椅子でゆっくりと過ごしており、ラジオ体操や筋力強化のための軽体操なども行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : JAIわて花巻認知症対応型共同生活介護 グループホーム とどろき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや談話室、廊下に椅子やソファを配置し、独りでゆっくり過ごしたい時に活用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が使い慣れた物や、家族が用意した物、写真や塗り絵等を飾り、居心地良く過ごしやすいよう工夫しています。	居室にはエアコンとベッド、イスが備付けられており、利用者は衣装ケースやテレビ、位牌などを持ち込んでいる。壁には、家族写真や手作りの装飾品、色紙などが飾られている。室温はエアコンと床暖房、加湿器によって適温に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備が先端的で高齢者には使いこなせていない部分が見受けられます。(洗面所の水道や建物の広さ等)ただ時計を食堂内や廊下等設置し、時間が確認出来るようにしています。		